

地域資源の絹で内装材「絹ガラス」を開発 伝統美で訪日外国人向けホテル需要に対応

和装用絹織物の老舗メーカーで、国内養蚕農家と契約し、蚕から製織まで高品質な製品を生み出している。平成8年には、繭から生糸・白生地までの統一商標を使用した日本初の純国産絹「松岡姫」ブランドを立ち上げた。さらに平成24年から、着物の染織技法として永年培った京都府内の地域資源と、合わせガラスの産業技術との融合を図り、新しい内装材「絹ガラス」を開発。和装事業に加え、空間装飾材「絹ガラス」事業も展開している。

- | | | | |
|----------|---|--------|---------|
| ● 所在地 | 京都府京都市中京区御池通室町東入ル
竜池町448-2 伊と幸ビル | ● 設立 | 1931年 |
| ● 電話/FAX | 075-254-5884/075-256-2818 | ● 資本金 | 9,900万円 |
| ● URL | https://www.kimono-itoko.co.jp/ | ● 従業員数 | 16人 |
| ● 代表者 | 代表取締役社長 北川 幸 | | |



京都の絹や染色技法を活用した商品開発で地域経済を活性化

地域資源である絹織物の中でも最高品質の「日本の絹」を手掛け、染め着物用の白生地として、皇室でも採用される等、高い認知度を誇る。しかしながら、和装市場自体は縮小傾向である。同社は、地域内外の企業との連携のもと、京都を代表する着物の染色技法を用いた絹織物と、合わせガラスの技術を融合した、「絹ガラス」の開発に成功。平成28年1月には、フランス人デザイナーとコラボ制作した絹ガラス製ネストテーブルをメゾン・エ・オブジェに出展する等、海外市場も視野に、新たな絹活用市場を開拓している。



仏人デザイナー共同開発ネストテーブル

地域資源の職人技を生かし、訪日外国人向けホテル需要に対応

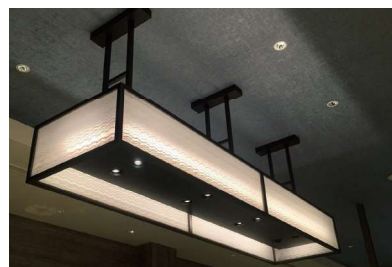
「絹ガラス」として封入する絹織物には、絹糸で表現する刺繍の伝統文様に加え、「京の名工」や、伝統工芸士らによる金彩工芸、着物の引き染め技法を生かした「日本の美の本物」を追及している。昨今、インバウンドに呼応したホテルの建設ラッシュが続いており、洋室ホテルにおいても、和の美の導入ニーズが高まっている。絹ガラスは、和装文化で培った審美性を活かした、伝統美や和文化そのものであり、尚かつスマートに現代空間を演出する内装材インテリア資材として、好調な受注状況にある。



ヘッドボード/JR西日本ヴィアイン

新たな産業技術と共同開発、新たなラインナップを製品化

高品質でデザイン性にも優れた絹織物をガラス等透明性のある素材と合わせることで、付加価値の高い建材として市場に投入し、絹織物を着物以外への用途あるものとして付加価値を高めた。現在は、建築用板ガラスとして封入する「絹ガラス」に加え、新たな産業技術との共同開発を手掛けている。一例として、薄型の可撓性を有する産業ガラスの合わせガラスの製品化(実用新案登録第3192340号)や、軽量で後加工が可能な樹脂ラミネートによる「絹障子」(照明用)など、新たなラインナップや応用製品化に努めている。



天井照明に「絹障子」/築地銀座グランデ